

スイーツ共同開発や居住促進サービス

道医療大との連携深化

当別町 まちづくりへ事業案

【当別】町は、北海道医療大の人材や知識を生かしたまちづくりの実現に向け、今後の検討対象となる事業案をまとめた。地場産農作物を活用したスイーツの共同開発から、学生の町内居住の促進を目的とした各種サービスの充実まで、幅広いアイデアを盛り込んでいる。(鄭真)

町は昨年11月から今年3月にかけて、同大教員や学生、同大の卒業生が設立した町内のNPO法人「ゆうゆう」などと定期的に協議を重ね、そこで出された意見をもとに今回の事業案をまとめた。	利用のパウダーを使った焼きドーナツとラスクの商品化を提案。野菜の栄養評価について同大薬学部から助言を受けながら製造し、大卒をモデルマーケットとして学内で学生や教職員向けに試験販売とアンケートを実施する。最終的に、当別のブランド商品に育てることを想定している。	このほか、同大付属薬用植物園や道民の森などを巡るフットパスの整備や、学生のニーズが高いCD・DVDのレンタルショップの町内誘致など、町内の基盤整備につながるアイデアも取り入れた。	食費などの生活資金を在学中に融資し、返済期間を卒業後に設ける制度も提案した。
このうち、スイーツ開発では、アスパラやトマトなど当別産野菜	アンケートを実施する。最終的に、当別のブランド商品に育てるこ	また、町内に居住する学生を対象に、学費や	町は「大学の有する知的、人的資源は魅力的なまちづくりを進めるために不可欠」とし、今後これらの事業案を町商工会や地元農協などと示し、実現性を模索していく。